



市会 議員 関 勝則
せき かつ のり

「地域のチカラ」を、
提案・実践。

◎決算報告速報◎
<http://関勝則.com>

速報

水道・交通委員会報告 その2

交通事業、水道事業の決算

7月上旬に交通局、水道局より28年度決算の速報値が発表されました。この決算については、監査委員の審査を経て9月に市会へ上程され、認定した後に確定されますが、一足先に市営交通、水道事業の収支状況についてご報告いたします。



市営バス・地下鉄事業は、
揃って7年連続
黒字を達成!!



●バス事業では、前年度を下回るものの、15億8600万円の経常利益を、また地下鉄事業においては、開業以来最高となる92億9700万円の経常利益をそれぞれ計上しました。



	28年度決算(速報値)	27年度決算	増減
バス事業	15億8600万円	17億9600万円	2億1000万円(減)
地下鉄事業	92億9700万円	83億7300万円	9億2400万円(増)

●乗車人員は、バス・地下鉄ともに前年比1日あたり1000人増え、98万1000人(バス:33万5000人、地下鉄:64万6000人)となりました。

●企業債残高については、返済が順調に進んでおり、両事業合計で143億8600万円減少しました(残高:3730億円)。バス事業では、一般乗合バスの乗車料収入は減少しましたが、貸切バスの増収で前年度並みの収入を確保できました。主な取組みとして、安全性向上のためのドライブレコーダーの更新や観光客向けに新たな路線の運航を開始、駅前ターミナルの上屋の更新を進めました(港南台駅、上永谷駅、鶴見駅西口)。

地下鉄事業では、沿線の人口増加に伴い乗車人員が増加し、前年度を上回る乗車料収入を確保した一方で、設備更新などで減価償却費が増加しています。主な取組みは、継続した耐震補強工事、タイヤ改正、新型車両の導入、駅の冷房化(仲町台駅、踊場駅)を進めました。

水道料金収入が減少する中で純利益は微増

水道料金収入は、使用水量の減少により前年度比で5%減の4億円となりましたが、様々な経費を抑制することで、純利益は11億円(前年度比6億円の増)の黒字となりました。また、企業債残高は前年度比38億円減の60億円となっています。



	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
水道料金収入	675	670	652	650	645	*億円
企業債残高	1775	1737	1685	1645	1607	

工業用水事業会計は、前年度ほぼ同額の9億8000万円の黒字、企業債残高は前年度に比べ7000万円の減となりました。主な事業としては、災害対策に引き続き取り組んだ他、横浜市の水源となっている山梨県道志川の管理・保全を進めるために同県から水源林を購入して100年を記念した事業を展開しました。

市営交通は、市民の外出や観光客の移動の手助けとなる重要な都市インフラであり、水道事業は、市民生活における最も大切なライフラインです。両事業ともに横浜の持続的な発展に欠くことはできませんし、何より市民の安心・安全に直結するものです。29年度は、様々な視点から両局の事業を検証してまいります。